

横浜市インフルエンザ流行情報 5号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

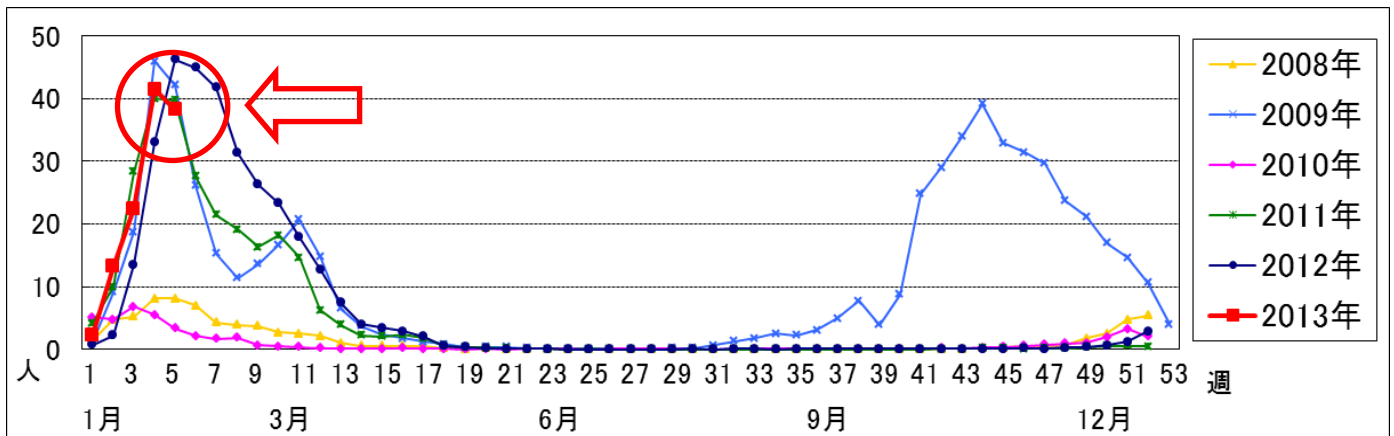
《トピックス》

- 流行はここ数週間がピークとされます。
- 流行の主体は **AH3 亜型 (A 香港型)** です。
- **10歳未満**と**70歳以上**の人で入院(重症化)が多くなっています。
- 予防では、うがい、手洗いや、マスクをしましょう。
- もし罹った場合は、早めに医療機関を受診しましょう。



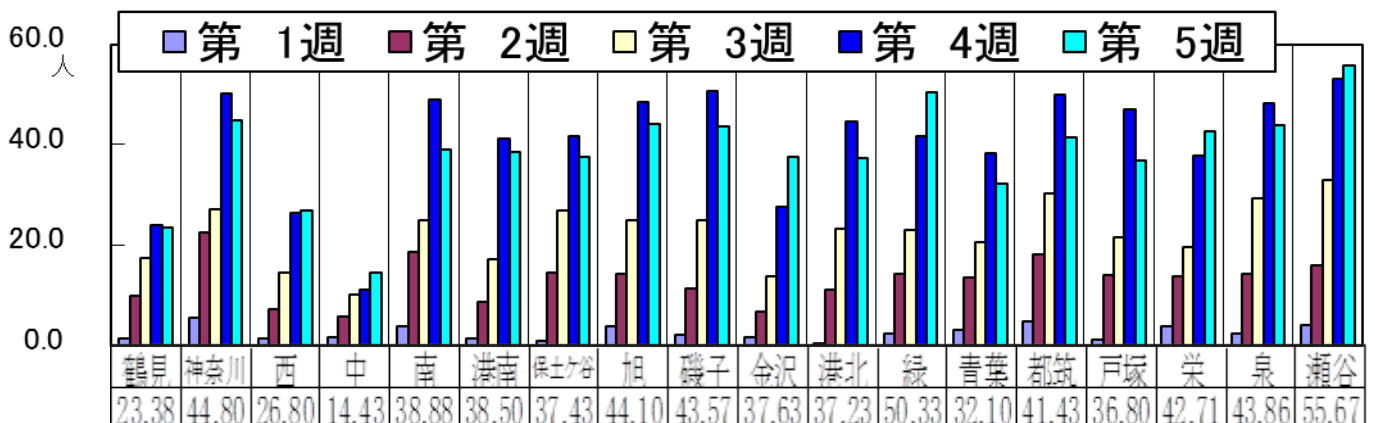
※参考 [平成24年度 今冬のインフルエンザ総合対策について\(厚生労働省\)](#)

1 市内流行状況:第5週は定点^{*1}あたり38.22と、前週の41.54からやや下がりましたが、依然として高い報告数を維持しています。例年のパターンから類推すると、ここ数週間がピークとされます。

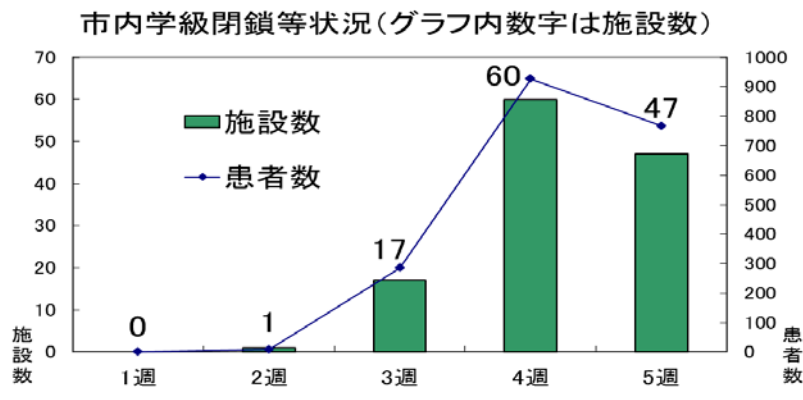


※1 定点・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内 152 か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

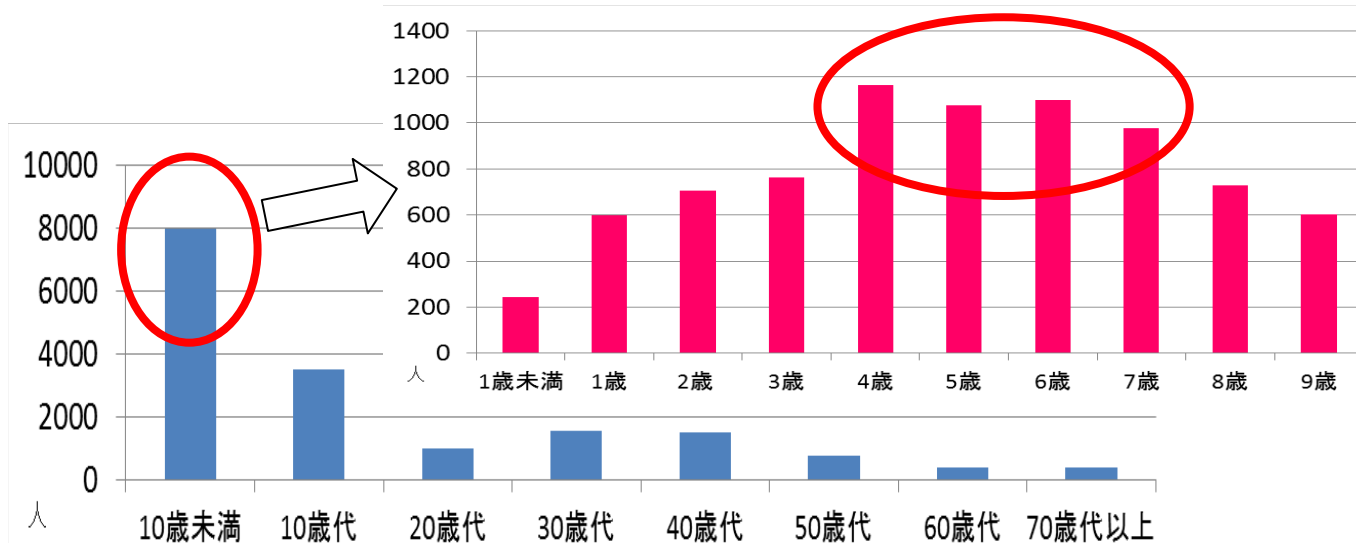
2 区別流行状況:最も多い区は瀬谷区 55.67 で、次に緑区 50.33、神奈川区 44.80 です。15区で警報レベル、3区で注意報レベルを上回っています。



3 市内学級閉鎖等状況:第5週に入り、閉鎖のあった施設数はやや減少しました。ただ、依然として現在も報告が続いています。第5週の施設種別では、多い順に小学校18件、幼稚園18件、中学校5件、高校4件、その他(専門学校等)2件でした。



4 年齢層別集計:直近5週間(第1~5週)の累計では、10歳未満の患者が最も多く、その内訳では特に4~7歳で多くなっていました。

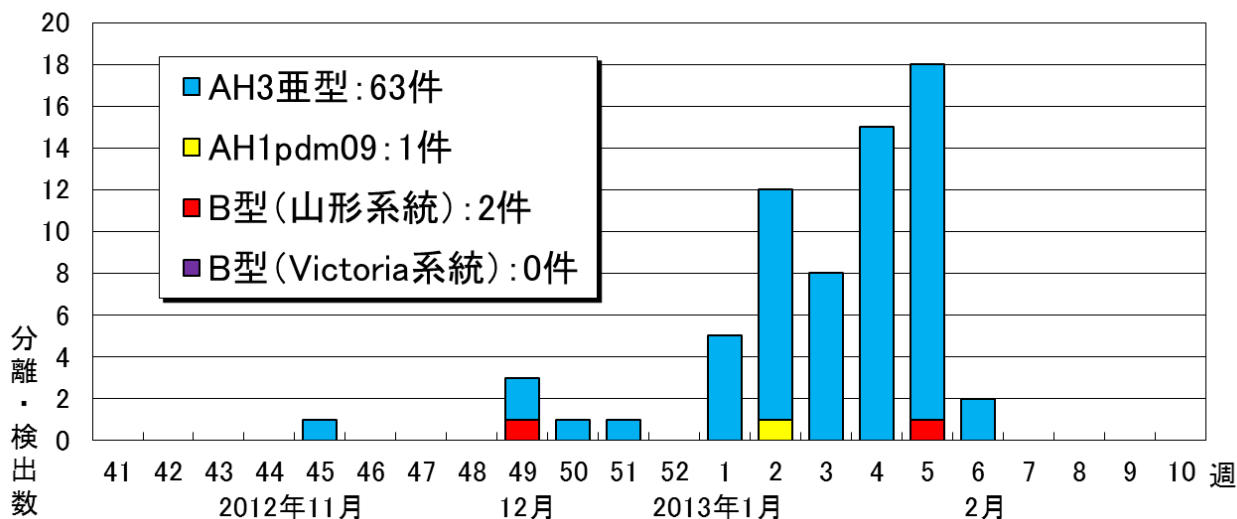


5 入院サーベイランス:基幹定点^{※2}医療機関のインフルエンザの入院患者数は、第2週以降多い状況が続いています。入院例はほとんどA型です。年齢層別(累計)では、70歳以上(43.6%)と10歳未満(36.6%)、で80%以上を占めています。

※2 基幹定点:地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。

6 市内病原体検出状況:市内では病原体定点から今シーズン計66件インフルエンザウイルスが分離・検出されており、そのうちAH3亜型が63件(95.5%)とほとんどを占め、全国と同様の傾向です。

病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況(2013年2月7日現在)



【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

TEL 045(671)2463
TEL 045(754)9815